

第13回日本核医学会総会のご挨拶

私は昨年の秋、皆様のご推薦により第13回日本核医学会総会の会長をつとめさせていただきました。私はその任ではないことを万々承知しておりますが、もし私も核医学の発展に少しでもお役に立てるようであったらと思ってこの大役をお引受けしたわけであります。ついでにできるだけよい具合に会を運営したいと思っているわけでありますが、力たらずで実際は皆様がご不満になる点のみと思います。何卒ご海容のうえご後援願い上げたく存じます。

大会の会期は8月27日から29日であります。これはたいへん暑い季節でありますので、ご参集の方々にはご迷惑かと存じます。しかし、丁度夏休み中ですので、比較的便利な場所で、暑くない部屋を選び、少しでもご苦労をへらすよう努力する所存です。

在来とちがった点は会期を3日とし、しかも最初の日を半日としたことです。第一日を半日にいたしましたのは、関東または関西からいらっしゃる方に便利ではないかと思ったのと、一方演題数が多かったのと、しかもその発表時間を少しでも長くしたいと思ったからであります。

シンポジウムその他についてはプログラム委員会のご援助を得ましたが、この委員会はいろいろな角度から考えて具合よくゆくように努力したつもりです。

この核医学会総会は日本の核医学の進歩をあらわすものであります。核医学の研究が年々盛んになってくる状況はまことに意を強くするものがございます。ご同慶のいたりであります。この大会を成功させるために、いろいろ不満足な点が多いかと思いますが、よろしくご後援下さいますよう切にお願い申し上げる次第でございます。

昭和48年6月

第13回日本核医学会総会会長

高 橋 信 次